

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	実習前指導 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	通年	教室名	404
担 当 教 員	専任教員	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
1月からの臨床評価実習に必要な知識・技術はもとより、臨床に臨む姿勢、態度についても学ぶことを目的とする。内容は言語聴覚療法各領域に渡る。臨床評価実習で活用できる評価方法とその考察について演習をまじえ行う。						
《成績評価の方法と基準》						
・実習前にOSCE(客観的臨床能力試験)を行う。(AMSD、WST、MWST、RSST等)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
各分野の教科書、検査マニュアル						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ検査を実習で実施できるよう学生同士で練習する。 ・評価・訓練プログラム立案、実施の演習では教材作成、レポート作成に取り組む。 						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習では指導者の監督下ではあるが、実習生としての責任が生じる。必要な準備を行い実習に臨めるよう自覚を持って履修することを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。			
		各コマにおける授業予定	BIT行動性無視検査①			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。			
		各コマにおける授業予定	BIT行動性無視検査①			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。			
		各コマにおける授業予定	重度失語症検査①			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。			
		各コマにおける授業予定	重度失語症検査②			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。			
		各コマにおける授業予定	Token test			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査補助テスト SLTA-ST①		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査補助テスト LTA-ST②		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	実用コミュニケーション能力検査 CADL①		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	実用コミュニケーション能力検査 CADL②		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症構文検査 STA①		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症構文検査 STA②		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症語彙検査 TLPA①		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症語彙検査 TLPA②		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の評価・訓練を理解し、実施できる。		
		各コマにおける授業予定	嚥下障害①		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の評価・訓練を理解し、実施できる。		
		各コマにおける授業予定	嚥下障害②		